

「愛」という理念を原点に、私たちはお客様とより広く、
より深くつながるために次世代足場の開発をはじめ、

これまで仮設業界の常識を覆してきました。だから私たちは知っています。

正しさを語り続けるだけでは、常識が古びてしまうことを。

正解だけでなく、別解をつくり続けなければならないことを。

お客様、そしてその先にある世界と未来に向けて、

私たちはプラットフォームを提供する会社となり、

今日も夢をのせ、未来を描き、ともにあり続けます。



私達が暮らすこの世界は、各国の経済が複雑にからみ合い、
無数の企業が営む活動によって常に動いています。

そして個々の企業は、そこに属する人々の弛まぬ努力によって成り立っています。

では人は何によって動かされるのでしょうか。

自身の意欲。家族への思いやり。そこが原点ではないでしょうか。

私達はそれを、企業成長の原動力にしたいと考えました。

理念は「愛」です。

一、己を愛する

私達はこの世に生を受け、己の人生と云うものがある訳です。

当然自分自身今日より明日へと高めることが必要であり、

一期一会の人生を己に言い聞かせ、甘える事なくおごる事なく生きていくことこそ、

己を愛することである。

一、人を愛する

私達の父母、兄弟姉妹等、すべての家族に対する思いやりは、愛の原点であり、

友人に、隣人に、そして世界の人々に、この思いやりと互いが幸福にと願う心、

その思いやりが人を愛することである。

一、会社を愛する

会社は生まれながらにして地域社会の一員であり、

私たちを育ててくれた地域社会に、国家に、

そして世界に感謝し、それぞれに私達は力の限り奉仕しよう。

人の集まる場所必ず集団が自然発生する。

その一つに企業集団があり、その企業を通じて地域社会に、国家に、

世界に奉仕することがすなわち会社を愛することである。

目次

イントロダクション

- 社是／経営理念 01
- 目次 02
- タカミヤの歴史 03

価値創造実現への道筋と強み

- トップメッセージ 06
- タカミヤの価値創造プロセス 12
- タカミヤのプラットフォームの価値創造 13
- タカミヤのマテリアリティ 14
- 外部環境とリスク・機会 16
- 中長期のロードマップ 18
- 2021年中期経営計画の振り返り 19
- タカミヤを取り巻く外部環境 20
- 新中期経営計画 21
- タカミヤプラットフォームの提供価値 26
- 経営戦略本部長メッセージ 30
- 経営管理本部長メッセージ 32
- タカミヤの事業 34
- 販売事業 36
- レンタル事業 38
- 海外事業 40

価値創造具体化の取り組み

- 人材 42
- 環境 48
- 安全／お客様からの信頼 49
- 社外取締役鼎談 50
- 役員一覧 54
- コーポレート・ガバナンス 57

ファクト／データ

- 財務・非財務ハイライト 62
- 11年財務サマリー 64
- 会社情報／株式情報 65
- 国内・海外ネットワーク 66

編集方針

本レポートでは、タカミヤグループのこれまでの歩みから、中長期的な価値創造に向けた戦略、ミッション・ビジョン達成への道筋、財務・非財務情報まで、網羅的に報告することを心がけました。これにより、株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様に、当社グループを一層ご理解いただくことを目的としています。

社是「愛」を経営理念に掲げ、新たな企業グループへと変革を遂げる当社への理解を、本レポートを通して深めていただけますと幸いです。

今後も、様々なステークホルダーの皆様のご意見・ご要望に耳を傾け取り入れながら、よりわかりやすい情報発信に努めてまいります。

将来見通しに対する注意事項

本レポートにおける業績予想などの将来に関する記述は、制作時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。したがって、様々な要因の変化により、実際の業績は、見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

範囲・期間

本レポートでは、当社グループにとって重要度の高い情報を集約して掲載しています。報告対象期間は、特に記載のない限り、2024年3月期(2023年4月1日～2024年3月31日)としていますが、最新の状況をご報告するため、報告対象期間以降(2024年4月以降)の情報も含んでいます。

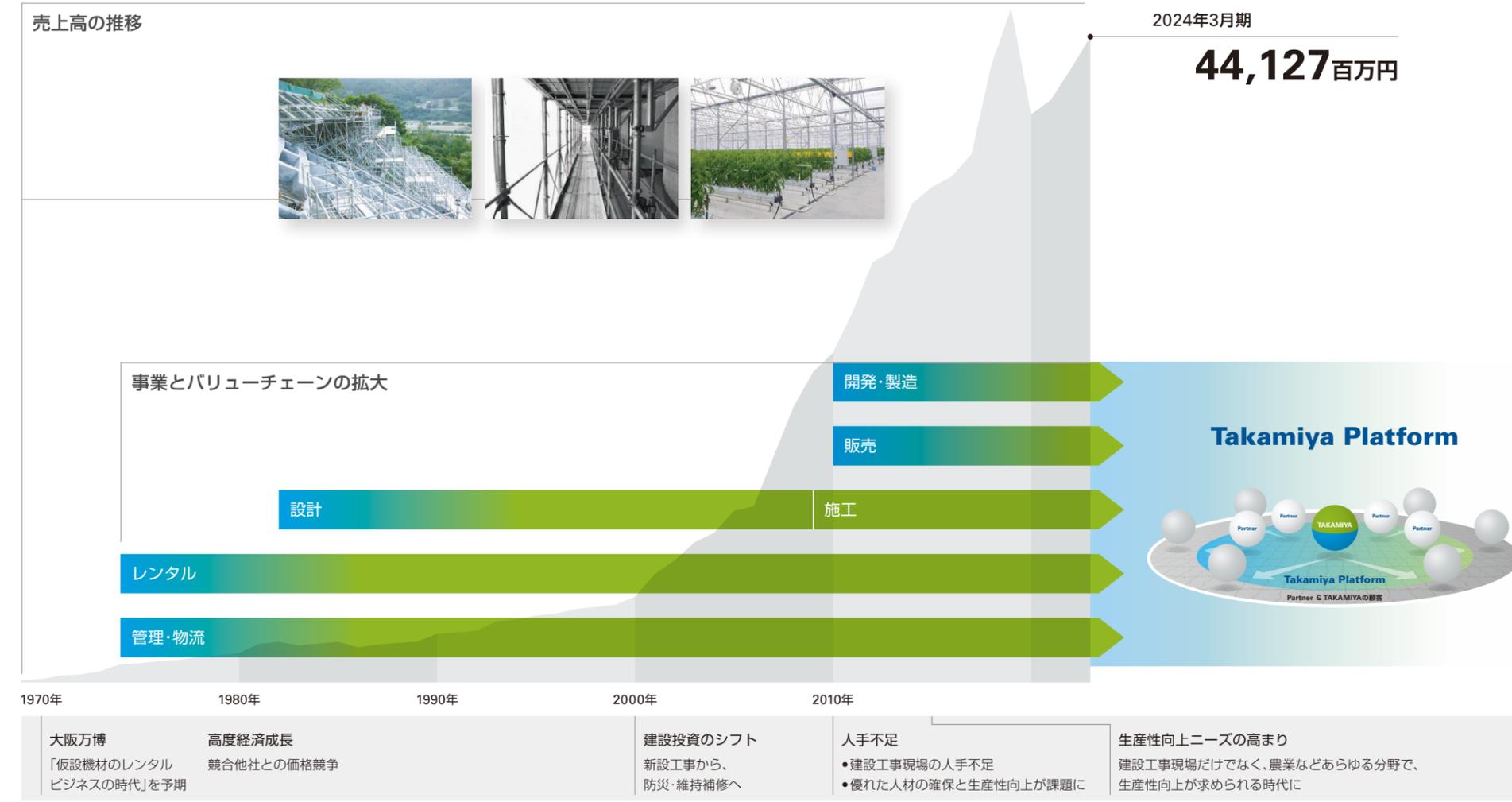
ツールマップ

<p>ウェブサイト</p> <p>株主・投資家情報(IR)</p> <p>https://corp.takamiya.co/ir/</p>	<p>タカミヤレポート</p>	<p>ウェブサイト</p> <p>企業情報</p> <p>https://corp.takamiya.co/corporate/</p>
<p>決算説明資料</p> <p>有価証券報告書</p> <p>ヒストリカルデータ</p>		<p>ウェブサイト</p> <p>製品情報</p> <p>https://www.takamiya.co</p>

財務情報 非財務情報

タカミヤの歴史

タカミヤは、社会が抱える課題やその先の時代の変化を先読みし、そのたびに事業を変革し「しくみづくり」によって社会に価値を提供してきました。私たちの変革の歴史をご紹介します。



1969年～

木製足場販売から 鋼製足場レンタル事業へ



当社は1969年に大阪府で創業し、木製足場の販売業からスタートしました。高度経済成長期、大阪万博やニュータウン計画など建設需要が高まる中、多くの建設会社は施工に際し、現地で足場を調達しては売却を繰り返していました。当社はこのような動きを見て、時代を先読みし、整備することで繰り返し利用できる鋼製足場のレンタル業へと事業を転換しました。製品に対する補償金制度の導入や最低レンタル期間の設定など、現在では業界で当たり前となっている仕組みや制度を構築し、足場ビジネスの制度・基礎を確立しました。

1980年～

全国・海外へ事業拡大



高速道路の建設ラッシュを追い風に、全国に通用する足場企業として成長するべく、企業グループ「SRG」を創設し、全国に展開していきました。また、シンガポールに連結子会社を設立し、仮設機材レンタル業界初の海外進出を果たしました。仮設機材を管理する機材センターにパイプ自動選別ケレン機などを導入し、機械化することで、省力化や合理化を推進し、機材供給体制の基盤強化を図りました。メーカーと製品を共同開発することで、製品ラインアップを拡充していきました。中古パソコンの小売業を始めるなど、仮設事業に留まらず、事業の多角化も進みました。

1989年～

大型土木事業へ進出



バブル崩壊や阪神淡路大震災の影響を受けた苦しい時代を乗り切るべく、橋梁や土木関連などの公共事業にも対応できるシステム支保工を導入しました。そして、新名神高速道路をはじめ、東海環状道路や伊勢湾岸自動車道などの大型土木工事への参入を果たしました。

パソコン販売事業からは撤退することにはなりませんが、仮設図面の設計会社を設立し、仮設機材の供給におけるサービスの幅を広げていきました。

2000年～

「足場革命」と 「NewからRenewへ」



「安全・環境・施工性」をコンセプトに、各メーカーと共同で現場の声を反映した戦略的商品を開発。現在の主力商品でもある、吊棚足場「V-MAX」や法面工事足場「YTロックシステム」移動昇降式足場「リフトクライマー」など、「足場革命」と題して従来には無い新製品を次々導入し、維持補修市場にも積極的に参画しました。足場板の入れ替えやパイプの素材変更などを行い、安全性や環境、施工性などへも意識を向け始めます。2005年には足場レンタル業界では初となるジャスタック証券取引所への上場を果たし、翌々年の2007年には東京証券取引所市場第2部への上場も果たしました。

2010年～

規格改正と業界革新



現在の実態に合わせた足場規格の変更や、労働災害防止策の強化など、足場業界の革新と新規格での次世代足場の開発を進めました。従来の足場の安全性や作業性の課題が顕在化してきた中、50年にわたり、変化のなかった仮設足場を変革するために、2010年に仮設機材メーカーのホリー株式会社を連結子会社化することでメーカー機能を獲得しました。2013年に次世代足場「Iqシステム」を開発し、市場へ投入しました。Iqシステムは従来の足場の階高170cmより、階高が20cm高い、190cmで、安全性と施工性が大幅に向上しており、作業者の身体的な負担を軽減することができます。現在では業界のデファクトスタンダードの地位を固めつつあります。また、金属加工技術を活かした制振フレームや農業用ハウスの開発、太陽光発電パネルの設置架台など、新領域へ業務展開しました。

2014年には東京証券取引所市場第一部に指定され、2019年には商号を現在の(株)タカミヤに変更しました。

2021年～

仮設業界の未来を ともに拓くパートナーに



50年にわたり築いてきた「開発・製造」「販売」「レンタル」「設計・施工」「管理・物流」の基盤を顧客に開放することで、社会課題や業界課題を解決するソリューションとして「Takamiya Platform」をスタートしました。DXを活用した新たなビジネスモデルとして、プラットフォームポータル「OPERA(オペラ)」やIqシステム管理運用サービス「OPE-MANE(オペマネ)」など、業界革新のためのサービス開発、顧客の課題解決のために、ブラッシュアップを継続しています。2024年9月にはプラットフォームにおける研究開発拠点 Takamiya Lab. Westをグランドオープンしました。

2022年には、東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からプライム市場に移行しました。